

有神進化論という考え方 牧師 立石尚志

5 月に研修休暇を頂いて、バンクーバーにあるリージェント・カレッジで行われた「Wonder and Devotion: Bringing Science and Faith Together for the Church (驚嘆と献身 (畏敬と礼拝) : 科学と信仰を教会のために引きあわせる)」という牧師対象の四日間のセミナーに出席した。期限切れが迫っていた米国内自由の航空券があったので、1) 一度は訪れたい神学校、2) 普段聞けないテーマ、3) 自分が好きな分野のこと、という基準で絞っていった結果、このセミナーに行き当たった。申し込みをした当時非常に忙しかったので、インターネットからダウンロードした講師陣プロフィール、講演の概要をゆっくりと読んだのは飛行機の中であったが、そこで私は驚いた。主講師: デニス・アレキサンダー: ケンブリッジ大学/科学と信仰研究ファラデー・インスティテュート/ディレクター (www.st-edmunds.cam.ac.uk/faraday)、科学とキリスト教信仰紙 (www.scienceandchristianbelief.org) 編集長、神経生化学博士、長年免疫学/癌研究に携わる。さらに読み進んでいくうちに、アレキサンダー博士が「有神進化論」の立場に立っておられる、ということが分かってきた。はっきりした「有神進化論者」…つまり、ダーウィンの進化論を受け入れる立場に立った福音派 (Evangelical) クリスマンの方の講演を聞くのは私にとっては初めてになる、というのが私の驚きの理由であった。自分自身、もっとこの立場について理解を深めなければならない、と常々感じていたこともあり、このような機会を備えてくださった神に感謝してセミナーに臨んだ。

● 有神進化論者の存在

ダーウィンの進化論が発表された 19 世紀半ば、科学者たちの多くはクリスマンであったが、神は進化という方法を持って天地を創造されたのだ! と改めて神のすばらしさを賛美したのだそうだ。彼らが有神進化論者の走りとなるが、その後、進化論は無神論者の教義の一つとなっていく、対立の構図が生まれていく。しかし科学が飛躍的に進歩し続けている現代、神による天地創造を文字通り信じつつも進化論の立場に立つ新たな有神進化論者も少なくないのだそうだ。最近翻訳された The Language of God (ゲノムと聖書) の著者であり、国際ヒトゲノム・プロジェクトのリーダーを務めたフランシス・コリンズ博士 (アレキサンダー博士とも親しい友人) もその一人である。

● 有神進化論とは

次が有神進化論の骨子である:

- 1) 宇宙は約 140 億年に何も無いところから始まった
- 2) 宇宙の様々な常数 (光速、重力、電磁力等々) は生命が出現できる環境を作りだすために精確に調整されている
- 3) 生命が始まったメカニズムは解明されていないが、一旦生命が始まると進化と自然選択により多種多様、複雑な生命体が出現した
- 4) 生命は創造者が特別な時に、特別介入するという方法ではなく、進化という方法で複雑化、多様化した (つまり神が進化という方法を選んだ)
- 5) 人間もこのプロセス上に出現し、類人猿と共通の祖先を持つ
- 6) 人間は霊的な存在であり、時代・文化を越えて「神を求める」ユニークな存在である

聖書には「偶然」は存在せず、神はすべてをご存知であるということが繰り返して述べられているが、有神進化論のエッセンスは「神は人間から見れば偶然に見える進化という方法を用いてすべてのものを造られた」ということになる。ちょうど物語作家が最初から結末を知って作品を作っていくのと同様である。

● 生命の枝分かれが検証された

進化論では生命がちょうど一本の木のように、どんどん枝分かれして今に至る、と提唱しているが、DNA の研究が飛躍的に前進する中で、研究者たちは「あらゆる生命は皆、共通の祖先を持っていることはもはや、疑いようのない事実であ

る」とする (詳しく「ゲノムと聖書」を御一読)。私の理解した範囲で講演のテクニカルな部分を簡単に話すとすると、DNA 上に古代から蓄積された不要部分 (ARE/ Ancient Repetitive Elements) というのがあるのだそうだが、この ARE を動物同士で比較・分類してみると、共通のグループが出現し、それを体系的に並べてみると、まさに進化論が提唱する生命の木と酷似したものができ上がるというのだ。さらに驚くのは、関係ないと思われていた動物同士が DNA 的に近い関係にあったり逆のケースもあるとのことだ。もし創造者 (神) が、ネズミも人間もそれぞれゼロから個別に創造されたのだとしたら、何の役割をも果たさない共通の DNA 不要部分/ARE が DNA 上でピッタリと同じ配列で組み込まれていることに説明がつかない。ゆえに創造者は進化というメカニズムを用いたと考えることの方が素直だ、と有神進化論者は言う。

● 他の有神的立場について

さらに創造に関して取られている他の立場についての問題提起もなされた。

1) ヤングアース (若い地球) 創造論者: 宇宙、星、地質学の研究から天地創造が紀元前 4000 年くらいだったとは結論しづらい。創世記 1 章を字義的に取り過ぎる必要はないのでは。

2) ID/インテリジェント・デザイン論: この論は「GOD of the GAPS/すき間を埋める神」的な論理に陥りやすい。現時点で説明できない様々な現象があったとして「それは神がしたことだ」と言ってしまうと、科学が進み、その現象について科学的な記述ができるようになって来ると神は徐々に必要なくなって行ってしまう。

● 創世記 1 章、畏敬と礼拝

ヘブル語/旧約学専門の講師からは創世記の読み方についての講義もあり、字義的な読み方に対する再考の必要、読み方によっては有神進化論と聖書を調和させることもできる、との説明もされた。講演の最終的な結論は、神が全能であるということを知るなら、クリスマンは進化を疑う必要もないし、進化論か創造論か選ぶ必要もなく、このように生命の多様化と複雑化を可能にする仕組み自体を作られた神に対して畏敬を表し礼拝すべきでないだろうか、ということであった。英国人ウィッ

トに富んだアレキサンダー博士の訴えにはいろいろ考えさせられた。

● 終わりに

多くの日本人にとりキリスト教信仰を受け入れることを難しくする最も大きな障害の一つは「天地創造/創造物語」である。NHK も民放も「進化・進化・進化・進化」と毎日のように繰り返し、日本では携帯電話に始まり、車、冷蔵庫、食べ物も金融商品、各種サービスもありとあらゆる物が「進化」する。骨の髄まで進化論が染み込んでいる日本人にとり、世界が進化の結果、今の状態になったのではなく、神の直接的創造によってできたのだ、と説明するキリスト教ほど、非科学的、おとぎ話的に聞こえてしまうものはないであろう。神が全ての物を創造されたということをおまじめに信じながらも、進化論も受け入れている有神進化論に立つクリスマン達がいるのを皆さんはどう感じたであろうか。

● クリスマン同士なお議論中

有神進化論に対する反論も当然ある。1) 医者や科学者など知的存在が病気に介入したり遺伝子を組み換えたりした場合、生命体は自然の状態では起こり得ない「非連続」な状態に移行するが、神はいとも簡単にこういう方法も取ることもできた (私はこう信じる ID 派)。2) 有神進化論も結局は広義の ID 論ではないのか。3) アダムとイブは実在したのか、4) 罪の結果としての「死」はどう位置づけるのか、5) 進化論者が拠って立っている地質年代に頼り過ぎではないか。ノアの洪水の見方で地質年代の考え方は大きく変わる可能性がある等、反対意見は上げればきりが無い。同じ聖書を信じ、同じ証拠を見ても色々なシナリオは描けるし、クリスマンとてタイムマシン無しに過去は検証できない。

四日間のセミナーは瞬間に終わった。集まったクリスマン達は紛れもなく皆、神を愛し、熱心に知ろうとしていた! 有限な自分の存在や、宇宙の起源を探求し、思い巡らし、議論し合っている生命体がいることこそ、本当は愉快なことのように思う。「ほら、もうちょっと考えてごらん。ここまでおいで!」という神の声を聞いたような気がする。■

